

Wiki ベースの研究室内ゼミ支援システムの提案

大久保温美 澤本潤 杉野栄二 瀬川典久

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

1 はじめに

本学の研究学年の学生には「ゼミ」という授業単位を取得することが義務づけられる。「ゼミ」では各個人の研究進捗状況に沿ったプレゼンテーションや、関連研究についての論文サーベイなどを行う。本研究ではゼミ参加者間の意見交換を行う場として、またゼミに関わる情報を整理する場として pukiwiki をベースにしたゼミ支援システムを提案する。

2 ゼミへの不満点と解決方法

2.1 従来のゼミに対しての不満点

従来のゼミの形態はゼミの発表者や発表内容を Blog の記事として残し、議事録は学生が記述しテキストファイルなどの形でメーリングリストに送るというものだった。研究学年になってからゼミ参加者に対してヒアリングを行い、従来のゼミに対しての不満点をあげてもらった結果以下のような意見があげられた。

- ゼミの前
 - ゼミ情報が周知されていない (開催場所、発表予定、備品準備など)
 - スケジュールの管理ができていない
 - 発表資料の管理が煩雑
- ゼミの後
 - ゼミで話し合ったことや意見が残りにくい
 - 議事録をメールで送らなければならない
 - 議事録をどのようにまとめればいいのかわからない

The proposal of the seminar support system by Wiki
 Atsumi OHKUBO, Jun SAWAMOTO, Eiji SUGINO, Norihisa SEGAWA
 Faculty of Software and Infomation Science, Iwate Prefectural University
 152-52, Sugo Takizawa, Japan

2.2 システムへの要求

ゼミへの不満点から以下の機能が要求としてあげられた。

- 情報管理 (授業場所、出欠席、発表予定)
- 発表資料の管理 (特定のアップロード先)
- 週報・成果報告
- ゼミ中の議事録 (ゼミ録)
- コメント管理

こういった要求を全て満たすために PukiWiki を利用することを考えた。

3 関連研究と問題点および対応策

大学の講座運営などに wiki を利用した研究はいくつかあるが、それらの中で指摘されている問題点と、今回行ったそれらへの対応策について以下に述べる。

セキュリティの問題 ウェブブラウザ上からだれでも書き込めるとい特徴から荒されやすいという可能性がある。この問題の解決方法としては認証を使う方法が一般的であるが、認証機構があるとアクセスしにくくなるという意見が多かったため認証は行わないこととした。学内 LAN からのみアクセス可能という時期もあったが、自宅などからの書き込みを行いたいという意見から外部からもアクセス可能とした。対策として、設定ファイルを書き換えることでクローラーを回避する META タグを埋め込むようにした。

wiki 記法への抵抗感 wiki の編集を行う際に使われる記法があるが、その記法になじみにくいという考察があげられていた。[1]しかし、今回の利用者となる研究学年の学生や教員にとっては特に問題となる要素では無いと判断した。

コンテンツ内容のばらつき 自由に様々なページを作成できることからコンテンツの内容が不統一で煩雑になってしまうという事が報告されている。[2]その点に関してはコンテンツの内容に制限をもうけることと、テンプレートを用意する事で解消した。

4 PukiWikiのコンテンツ

PukiWikiは自由にページを作成できるが、今回はゼミの支援を目的としているためある程度コンテンツを制限して運用を行った。コンテンツは要求を満たすために以下のものを用意した。

ゼミ予定 ゼミの予定などの情報を書き込むページ。wikiの管理者などによって毎月更新される。

連絡事項 ゼミや研究室に関係したイベントの連絡事項を告知するためのページ。articleプラグインを用いた掲示板形式になっている。

交流掲示板 書き込む先が特定しがたい情報などを書き込むためのページ。連絡事項と同様に掲示板形式になっている。

ゼミ録 ゼミ中の発言などをまとめた議事録のようなもの。毎回のゼミ毎に担当者を決めてページを作成する。記述を用意するためにテンプレートを用意した。

個人ページ ゼミに参加する学生・教員各個人のページ。スケジュールを共有するためのカレンダー機能とコメント欄を最低限もつけた。それ以外のコンテンツに関しては個人の裁量にまかせた。

テンプレート 更新されるコンテンツでは無いが、管理者によって作成された。PukiWikiでは他のページを雛形として新規ページを作成することが可能なため、よく使われる可能性が高いページのテンプレートを用意した。今回作成したのは「ゼミ録テンプレート」「週報テンプレート」「個人ページテンプレート」の3種類である。

運用当初から5つのコンテンツを利用してきたが、書き込み頻度やページの内容などから「連絡事項」と「交流掲示板」を統合して使用することを検討している。

5 宛先指定コメントプラグイン

PukiWiki標準のプラグインにcommentやpcommentというプラグインがある。このプラグインは1行掲示板のようなもので発言者の名前とコメント内容を書き込んで手軽に意見を発信できる。しかし、書き込んだ内容を見てほしいメンバーが確認するとは限らない。そこで、書き込む内容を他のページでも反映できるコメントプラグインを作成した。このプラグインは発言者の名前、コメント内容、宛先ページ名の3つを書き込むことでコメントされた内容が宛先ページ書き込まれる。コメント内容は宛先ページのプラグインを挿入した位置に反映されるので、コメントが確認される確率が高くなると考えた。さらに個人宛て

のコメントが個人ページに集約されることにより後でコメントを参照する際に自分に関係したコメントを探す手間が省けると考えた。

6 評価

利用者にアンケートを行い10月時点での評価を行った。Wiki導入前との比較では調べたことや成果などを記録しておける、過去の書き込みが参照しやすい、コメントなどですぐにレスポンスができる等の意見が挙げられた。コンテンツの利用状況の調査では学生は各個人ページの利用が主となっていて、他のメンバーの個人ページはあまり参照していないという結果になった。教員は個人ページの更新などはほとんど見られなかったが、コメントの書き込みや資料の添付による配布などの利用手段が見られた。全体的な意見ではWikiの検索機能が使いにくいといった問題点も挙げられた。アクセス解析や運用後半の評価は今後行っていく。

7 おわりに

本研究ではPukiWikiを利用してゼミを支援するための方法を模索し、実際に検証を行った。導入が2007年6月からだったこともあり当初期待していたほど顕著な効果は現れなかった。しかし、利用者からのアンケート結果から改善すべきポイントが浮かんできたので今後も研究室内でPukiWikiを運用し、さらに効果的な支援方法を検討していく。同時に過去の記録をPukiWikiのドキュメントとして残すことで今後のゼミ運営および卒業研究の参考になるような形で継続していく。

参考文献

- [1] 伊藤久祥 「Wiki型システムによる研究室内情報共有の試み」電子情報通信学会技術研究報告 Vol.103, No.226(20030719)pp.13-18
- [2] 吉住桂市 「Wikiの卒業研究ノートへの応用」鶴岡工業高等専門学校研究紀要 Vol.40(20051220)pp.33-36